

感染症の分類 (当院で取扱いのみ表記)	ワクチンの特徴	ワクチン名/価格	予防できる感染症	接種間隔
集団予防を目的とする感染症	生ワクチン: 毒性を弱められたウイルスや細菌が体内で増殖して高めていくため、摂取回数は少なく済みます。十分な免疫ができるまでに約1ヶ月かかります。	MR(麻疹風疹混合) ワクチン/8000円	麻疹(はしか): 発しん、発熱、首や耳の後ろのリンパ節が腫れることを主な症状とする感染症です。成人で感染すると重症化することがあります。 風疹: 発しん、発熱、首や耳の後ろのリンパ節が腫れることを主な症状とする感染症です。妊婦が感染すると先天性風疹症候群という先天異常をきたすリスクがあります。	あらかじめ混合されていない2種類以上のワクチンを別々に接種する場合には、通常生ワクチンの場合は、27日(4週間)以上あけて次のワクチンを接種します。
		水痘ワクチン 3000円	水痘(みずぼうそう): 感染力の強い水痘帯状疱疹ウイルスによっておこる病気です。風しんやおたふくかぜよりも感染力が強く、水痘に感染した人のせきやくしゃみを吸い込むことで感染します。(空気感染) 発熱、水ぶくれを伴う発しんが主な症状で、重症化すると入院加療を必要とする場合もあります。	13歳以上は4週間以上あけて、2回接種します。
個人予防を目的とする感染症	不活化ワクチン: 病原体となるウイルスや細菌の感染する能力を失わせた(不活化、殺菌)ものを原材料として作られます。自然感染や生ワクチンに比べて生み出される免疫力が弱いため、1回の接種では十分ではなく、何回か追加接種が必要になります。必要接種回数はワクチンによって異なります。	※インフルエンザ 2500円	インフルエンザ: 感染力が非常に強く、症状の重い呼吸器症状をきたす疾患です。肺炎・急性中耳炎・脳症等の合併症をおこして重症化する場合もあり、時に致命的経過をたどることもあります。	6日(1週間)以上の間隔をあけて次のワクチンを接種します。1-4週間空けて2回接種することも可能です。(13歳以上) 推奨接種時期: 10月~11月、2回目: 11月~1月 ワクチン持続効果期間約2-3か月~5か月
		成人用肺炎球菌 ワクチン/7000円	成人の肺炎球菌感染症: 免疫力が低下した方や高齢者では重症肺炎や髄膜炎、敗血症をきたして致命的経過をたどることもある疾患です。	ワクチンの種類により、接種間隔が異なります。23価肺炎球菌ワクチンの場合、2回目、3回目の接種で、接種間隔が短いと、副反応(接種部位の赤み、痛み、腫れなど)が強く出ることがあるため、5年以上の接種間隔をあける必要があります。
トキソイド	病原体となる細菌がつくる毒素だけを取り出し、毒性をなくしてつくられたワクチンです。不活化ワクチンと同様に数回接種して免疫がつくられます。	破傷風ワクチン 2000円	破傷風: 土中の破傷風菌が傷口から入って起こる病気です。高熱、強直性(筋肉が硬直する)痙攣を引き起こす感染症で重篤な場合は数時間で死に至ります。	破傷風ワクチンは3種混合ワクチン(ジフテリア、破傷風、百日咳)に含まれています。定期予防接種で12歳の時に接種していれば、20代前半までは免疫はあり、約10年間の免疫持続します。その後は免疫は消失していきます。海外やボランティアで渡航する予定がある場合は追加接種することをお勧めします。
		※以下の方々が定期接種の対象です。(当院は公費枠の接種はできません) 65歳以上の方 60~64歳で、心臓、じん臓若しくは呼吸器の機能に障害があり、身の周りの生活を極度に制限される方 60~64歳で、ヒト免疫不全ウイルスによる免疫の機能に障害があり、日常生活がほとんど不可能な方		

※上記記載のないワクチンをご相談ください